

おおやましんこう

#21 大山信仰

作者：圭室文雄（たまむろ・ふみお 1935-）

刊行：平成4年（1992）



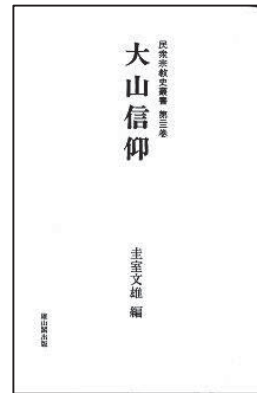
📖 解題

■ 内容

『大山信仰』は昭和57年（1982）から刊行された『民衆宗教史叢書』の第22巻であり、編者をはじめとした15人16本の論文が収録されている論文集である。各論文は大山信仰に関する基本文献であると、3つのテーマで大別している。

「第一篇 近世における大山御師の成立と壇廻り」では、大山信仰について通史的に記した、西垣晴次「大山とその信仰」のほか、総合的に大山信仰の実態をあきらかにし、大山町の構成と組織、宗教活動、壇廻などについて記した、浅香幸雄「大山信仰登山集落成の基盤」、大山の門前町の成立と発展や、大山御師、街道の展開について記した、有賀密夫「大山門前町の研究—門前町の形成と御師の活動と檀家圏—」、編者である圭室文雄が『大山不動靈験記』を分析し、民衆への利益や靈験をどの様に説いていたかをあきらかにした『『大山不動靈験記』にみる大山信仰』など、6本の論文が収められている。

「第二篇 明治期における大山信仰の展開」は、大山の神仏分離において御師たちがどのような意識を形成し、行動したのかについて分析した、松岡俊「幕末明治初期における相模大山御師の思想と行動—神仏分離を中心として—」や、御師毎の総檀家数が把握できる『開導記』を集計した、



[K17.64/33]

第3章 思想・宗教

田中宣一「明治初期における大山講の分布」、神仏分離以後、大山信仰により暮しを立てていた大山町の経済的動揺などについて分析している、丹羽邦男「先導師の町ー明治前期の大山町ー」など5本の論文で構成されている。

「第三篇 大山参詣の諸道について」では、江戸湾の海上交通と大山参詣者について記された論文が、安池尋幸「中世・近世における江戸内海渡船の展開ー富津・野島間の渡船の場合ー」など3本、また大山の阿夫利神社に大きな木太刀を奉納する風習などについて記した、吉岡清司「大山信仰と納太刀」や、藤沢地域の大山講員の実態について『開導記』から分析した、高野修「相模大山講と藤沢」など計5本が収められている。

また、「第四篇 大山信仰の研究成果と課題」では編者によって「一 大山信仰の研究動向」、「二 収録論文解説」、「三 大山関係論文一覧」が記されており、「二 収録論文解説」では各論文の収録雑誌や、論文のねらい、特色について説明されている。

■ 作者

神奈川県生まれの宗教史学者。国学院大学文学部史学科卒業、明治大学大学院文学研究科史学科専攻博士課程単位取得。明治大学名誉教授・大乘淑徳学園理事。著作に『江戸幕府の宗教統制』（評論社 1971）、『神仏分離』（教育社 1977）、『日本仏教史 近世』（吉川弘文館 1987）等がある。

参考文献

『新訂増補 人物レファレンス事典 昭和(戦後)・平成編 せ〜わ』日外アソシエーツ 2003 [281.03/136A/4]

『江戸時代の遊行聖』圭室文雄著 吉川弘文館 2012 (歴史文化ライブラリー 338) [188.69/18]